

設計・計画部門



しの ぎ だい すけ
篠木 大輔

生年月日 1981年5月奈良県生まれ
最終学歴 2007年大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻前期博士課程修了
業務経歴 2007年榊大林組入社
現在、大阪本店建築事業部プロジェクト設計部主任

●担当した主なプロジェクト
2010年 京王電鉄布田駅
2013年 阪神神戸三宮駅改修工事
2014年 赤田善株式会社新社屋
●受賞
第48回SDA賞 関西地区賞 入選

■青年技術者のことば

一思いをつなぎとめる建築—
建築をつくることは、様々な思いをその場所につなぎとめることだと私は常に意識している。

クライアントを思い、設計者として時代や社会的背景を踏まえた建築のあるべき姿を思い、敷地に建築として再構築する。その過程においてはメーカーや建築現場における様々なプロフェッショナルとの共働が不可欠であり、いいモノを創りたいという関係者共通の思いがある。

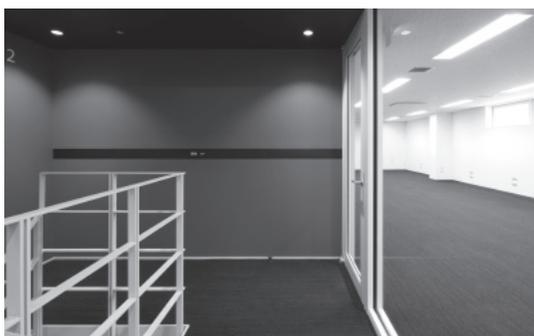
これらの思いを設計者の熱意でまとめあげることが建築を創る上で大切であると考えている。

未熟ゆえに、建物が出来上がるまでに予期せぬ困難な場面に直面することも数多くあったが、竣工時のクライアントの笑顔、そして竣工後に聞こえてくる満足の言葉が設計者としての次への大きな原動力となっている。

これからも、様々な思いの集大成として魅力的な輝きを放ちながら、永く人々に使い続けられる建築づくりに設計者として関わっていきたいと思う。

■すいせん者

近井 務
(株)大林組 大阪本店 建築事業部
統括部長



阪神電車 神戸三宮駅改修工事

私鉄地下のターミナル駅における1933年の竣工後初となる大規模改良工事である。既存の限られた地下空間内にコンコースフロアを増床するというプログラムによる厳しい断面的な制約の下、イメージ刷新だけでなく、天井高さ確保等の駅舎としての機能性との両立が求められた。本計画において特徴的な、六甲の山並みと神戸港に囲まれた三宮という地域性から導きだされた「なみ」をデザインコンセプトとしたスチールパネルの波天井は、重なり合うなみの意匠の中に吊サイン・照明設備・空調設備を統合するとともに、天井高さを確保しつつ駅利用者に天井の圧迫感を感じさせることなく、リズムカルに人を導く仕掛けとなっている。



赤田善株式会社新社屋

食品添加物の製造・販売を行う同業の本社建て替え計画。延床面積約940㎡のオフィスとして、諸室をコンパクトに配置するとともに、既製品部材を丁寧に組み合わせることにより、端正なファサード創りを目指した。